

三重縣公報

第千九百二十一號

明治三十九年十二月二十八日

金 曜 日

○訓令

●三重縣訓令甲第五十六號

警察署
同 分 署

明治二十七年三重縣訓令甲第八十六號畜雞場取締規則施行手續第四條第五條明治三十三年同令甲第七十四號氷雪營業取締ニ關スル施行手續第五條同年同令甲第七十六號清涼飲料水營業取締ニ關スル施行手續第四條同年同令甲第八十一號牛乳營業取締ニ關スル施行手續第四條第八條第十條第十一條ハ之ヲ削除ス

明治三十九年十二月二十八日

三重縣知事有松英義

○告示

●三重縣告示第三百八十三號

左記ノ者產婆名簿登錄並左記頭書ノ事故ヲ以テ產婆名簿登錄取消訂正出願ニ依リ明治三十九年十二月二十五日當縣產婆名簿登錄並產婆名簿ヲ訂正取消セリ

明治三十九年十二月二十八日

三重縣知事有松英義

三重縣志摩郡鳥羽町大字鳥羽千六百五拾貳番地平民

下山 又 谷 尾

明治拾九年拾月拾參日生

三重縣多氣郡川添村大字神瀬六番屋敷平民

明治參拾九年拾貳月 産婆 西 村 ぬ 山

嘉永四年八月拾八日生

三重縣多氣郡佐奈村大字油夫七番地ノ壹
多氣郡佐奈村大字仁田 産婆 奥 林 ま つ
貳拾五番屋敷へ轉住

明治五年八月五日生

●三重縣告示第三百八十四號

左記ノ通蠶病豫防吏員ヲ免シタリ

明治三十九年十二月二十八日

三重縣知事有松英義

明治三十九年十二月十八日付

三重縣蠶病豫防吏員 長 沼 辨 治 郎

同年同月十九日付

同年同月二十一日付

三重縣蠶病豫防吏員 駒 田 太 市 郎

同 小 野 政 吉

同 加 藤 準 太 郎

同 矢 野 龜 三 郎

同 濱 林 武 三

同 佐 野 良 三

同 松 嶋 良 三

同 川 北 助 太 郎

同 潮 田 龜 藏

同 山 村 寅 之 助

同 藤 岡 德 兵 衛

同年同月二十二日付

三重縣蠶病豫防吏員 山 邊 豐 次 郎

●三重縣告示第三百八十五號

明治三十九年本縣告示第七十三號桑名郡楠村上郷普通水利組合區域ニ左ノ通追加ス

明治三十九年十二月二十八日

三重縣知事有松英義

桑名郡楠村大字中川字寺田下全部

同 郡長島村大字平方字チノ割全部

同 郡同 村大字同 字リノ割全部

同 郡同 村大字同 字ヌノ割全部

同 郡同 村大字高座字古川全部

同 郡同 村大字中川字法來部ノ内反別八反三畝十步

同 郡同 村大字同字中野長ノ内反別二反一畝二十三步

同 郡同 村大字同字屋敷付ノ内反別一町三反步

同 郡同 村大字同字寺田下ノ内反別三反四畝三步

●三重縣告示第三百八十六號

受知縣西加茂郡高橋村役場本月十日火災ニ罹リ書類焼失シタルニ付火災前該役場ニ對シ出願照會等ノ事件ニシテ應答未済ノモノハ明治四十年一月三十日迄ニ更ニ其ノ手續ヲ履行スヘシ

明治三十九年十二月二十八日

三重縣知事有松英義

●三重縣告示第三百八十七號

明治三十九年十二月二十六日左記人名ヲ當應產婆名簿ニ登錄セリ

明治三十九年十二月二十八日

三重縣知事有松英義

三重縣河藝郡白子町大字白子四百參拾四番屋敷平民
長谷川 はつ

明治拾九年拾壹月拾貳日生

三重縣度會郡五ヶ所村大字五ヶ所浦五拾番屋敷平民

山 本 めん

明治拾年壹月五日生

三重縣阿山郡島ヶ原村六千五拾參番地平民

岩 佐 てる

明治九年參月拾八日生

三重縣志摩郡濱島村大字南張五番屋敷平民

川 口 えかの

明治拾六年六月貳拾七日生

三重縣河藝郡天名村大字德田百六番屋敷平民

瀧 美 まさ

文久貳年四月拾五日生

●三重縣告示第三百八十八號

耕地整理及土地改良事業工事監督規程左ノ通定ム

明治三十九年十二月二十八日

三重縣知事有松英義

耕地整理及土地改良事業工事監督規程

第一條 三重縣耕地整理及土地改良獎勵規程ニ依リ三重縣農會技術員ノ監督スヘキ事項左ノ如シ

一 耕地整理ニ關スル工事

二 土地改良ニ關スル溜池堰堤ノ築設及揚水機排水機ノ設置工事

三 其ノ他耕地整理及土地改良ニ必要ナル工事

第二條 起業者ニシテ三重縣耕地整理及土地改良獎勵規程第十二條ニ違反シタル者アルトキハ監督員ハ直ニ之ヲ三重縣農會長ニ報告スヘシ

第三條 起業者ニ於テ縣農會ノ爲シタル設計ニ變更ヲ必要トスル場合ニ於テハ監督員ノ調査ヲ受ケ之ヲ三重縣農會長ニ請求スヘシ

第四條 監督員ニ於テ設計ノ變更ヲ必要ト認メタルトキハ其ノ事項ヲ具シ之ヲ三重縣農會長ニ報告スヘシ

第五條 監督員ハ隨時工事ニ關スル諸帳簿圖面等ヲ檢閲スルコトアルヘシ

●三重縣告示第三百八十九號

耕地整理及土地改良獎勵規程左ノ通定ム

明治三十九年十二月二十八日

三重縣知事有松英義

耕地整理及土地改良獎勵規程

第一條 本縣内ニ於テ耕地整理法ニ基キ耕地ノ整理ヲ爲サントスル者及揚水機排水機ヲ設ケ溜池堰堤ヲ築設シ又ハ其ノ他ノ工事ヲ施シ土地ノ改良ヲ爲サントスル者アルトキハ本縣農會ヲシテ其ノ調査測量設計ヲ助成セシムヘシ

第二條 前條ノ調査測量設計ヲ助成セシムヘキ地區ハ面積三十町歩以上タルヲ要ス但シ地形上他ノ模範ト認ムヘキモノハ此ノ限ニ在ラス

第三條 耕地整理又ハ土地改良ニ關スル調査ヲ受ケントスル者ハ發起人ヲ定メ第一號書式ノ申請書ニ地形畧圖ヲ添付シ郡市農會ヲ經由シテ之ヲ三重縣農會長ニ提出スヘシ

第四條 耕地整理ノ測量設計ヲ申請セントスル者ハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

一 地形調査ノ結果整理ニ適當ナル地區ト認メラレタルコト
二 整理地區内ニ於ケル土地所有者ノ三分ノ二以上ノ同意アルコト
三 整理地區内ニ於テ同意者ノ所有スル土地ノ面積整理地區ノ總面積ノ三分ノ二以上ナルコト

四 整理地區内ニ於テ同意者ノ所有スル土地ノ地價額整理地區ノ地價總額ノ三分ノ二以上ナルコト

第五條 耕地整理ニ付測量設計ノ助成ヲ受ケントスルトキハ發起人ハ第二號書式ノ申請書ヲ郡市農會ヲ經由シテ之ヲ三重縣農會長ニ提出スヘシ

土地改良ニ關スル設計ヲ受ケントスルトキハ關係土地所有者三分ノ二以上ノ連署ヲ以テ第三

號書式ノ申請書ヲ郡市農會ヲ經由シテ之ヲ三重縣農會長ニ提出スヘシ
第六條 調査又ハ測量設計ヲ申請スル者多數アル場合ハ三重縣農會長ニ於テ便宜其ノ施行ノ順序ヲ定ムルモノトス

第七條 耕地整理ノ地形調査測量設計及土地改良ニ關スル調査設計ニ要スル人夫杭木其ノ他ノ雜費ハ申請者ノ負擔トス

第八條 本縣農會ニ於テ耕地整理ニ關シ測量設計及土地改良ニ關シ調査設計ヲ終了シタルトキハ圖面及設計書ヲ調製シ之ヲ申請者ニ交付スヘシ

第九條 本縣農會ニ於テ爲シタル設計ハ本縣農會ノ承認ヲ經ルニアラサレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

第十條 耕地整理及土地改良事業施行中ハ隨時本縣農會技術員ヲシテ之ヲ監督指導セシムヘシ

第十一條 左ノ場合ニ於テハ起業者ハ事由ヲ具シ特ニ本縣農會ノ指導ヲ請求スルコトヲ得

一 複雜ナル工事ヲ施行スルトキ

二 設計ノ變更ヲ要スルトキ

三 特種ノ工事ヲ施行スルトキ

四 其ノ他特ニ指導ヲ要スルトキ

第十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル行爲アリタルトキハ測量設計及調査ニ要シタル費用ノ全部又ハ一部ヲ償還セシムルコトアルヘシ

一 本規程ニ違背シタルトキ

二 設計書交付後特別ノ事由ナクシテ十二ヶ月ヲ經過スルモ尙發起認可ノ申請ヲナササルトキ

三 耕地整理法第三十一條ノ處分ヲ受ケタルトキ
四 事業ヲ廢止シタルトキ

第一號 書式

耕地整理(土地改良)調査ノ義ニ付申請

一 耕地整理(土地改良)地區所在地

一 耕地整理(同上)地區總面積

今般前記耕地ノ整理(土地ノ改良)致度候ニ付明治三十九年十二月二十八日本縣告示第三百八十九號耕地整理及土地改良獎勵規程第三條ニ依リ地形略圖相添此段及申請候也

年 月 日

住 所

發起人 何 某 印

住 所

發起人 何 某 印

三重縣農會長 殿

第二號 書式

耕地整理地區測量設計ノ義ニ付申請

一 整理地區所在地

一 整理地區總面積

一 土地所有者總數

一 同意者ノ所有スル土地總面積

一 同意者ノ所有スル土地地價總額
一 工事着手豫定時期
一 工事竣成豫定時期
今般前記ノ地區整理致度候ニ付明治三十九年十二月二十八日本縣告示第三百八十九號耕地整理及土地改良獎勵規程第五條第一項ニ依リ豫定地區略圖相添此段及申請候也
年 月 日

三重縣農會長

殿

住	所	發起人	何	某
住	所	發起人	何	某

第三號 書式

土地改良調查設計ノ義ニ付申請

- 一 土地改良地區所在地
- 一 土地改良ノ目的(排水機、揚水機、溜池ノ設置等)
- 一 土地改良地區總面積
- 一 土地改良地區總地價
- 一 關係土地所有者數
- 一 關係土地所有者同意者ノ數
- 一 工事着手豫定時期

一 工事竣成豫定時期
今般前記ノ地區改良致度候ニ付明治三十九年十二月二十八日本縣告示第三百八十九號耕地整理及土地改良獎勵規程第五條第二項ニ依リ改良豫定地區略圖相添此段及申請候也
年 月 日

三重縣農會長

殿

住	所	關係土地所有者	何	某
住	所	關係土地所有者	何	某

●三重縣告示第三百九十號
左記ノ者ヘ頭書ノ通小學校教員免許狀ヲ授與セリ

明治三十九年十二月二十八日

三重縣知事有松英義

小學校本科正教員	蛭澤二郎
同	和田美惠次郎
同	川北貞次郎
同	佐藤學
同	池田つう
同	戸澤みし

同	尋常小學校本科正教員	上	佐藤	し	ね
同	同	上	守岡	宗世	松
同	同	上	藤井	喜十郎	
同	同	上	伊野	與志郎	
同	同	上	佐藤	知三	
同	同	上	近藤	知三	
同	同	上	井本	勘三郎	
同	同	上	井本	勘三郎	

●三重縣告示第三百九十一號
特別漁業免許狀ノ書換ヲ許可セシモノ左ノ如シ

明治三十九年十二月二十八日

三重縣知事有松英義

免許 免許年月日 書換ノ事由 許可年月日 相續人住所同上氏名
番號 明治三十七年十一月二日 相續 明治三十九年十二月十九日
河藝郡若松村大字北若松山中喜三

●三重縣告示第三百九十二號

愛知縣碧海郡新川町ニ於テ牡馬一頭假性皮疽ニ罹リ京都府天田郡曾我井村字堀ニ於テ牡牛一頭氣腫疽ニ罹リタル旨通知アリタリ

明治三十九年十二月二十八日

三重縣知事有松英義

●三重縣告示第三百九十三號

明治三十九年十二月二十二日新町蠶病豫防事務所ヲ閉鎖セリ

明治三十九年十二月二十八日

三重縣知事有松英義

○廳中事項

●叙任辭令

十月十六日

三重縣書記ヲ命ス 清水龍太郎

八級俸給與

十一月十六日

三重縣蠶病豫防吏員 中村善七郎

三重縣蠶病豫防吏員 眞川源太郎

三重縣蠶病豫防吏員 伊藤佐市郎

三重縣蠶病豫防吏員 坂本徳次郎

事務ノ都合ニ依リ三重縣蠶病豫防吏員ヲ免ス
十一月十七日

(各通)

三重縣蠶病豫防吏員 小森周太郎

三重縣蠶病豫防吏員 久保田 熊太郎

事務ノ都合ニ依リ三重縣蠶病豫防吏員ヲ免ス
十一月十八日

三重縣蠶病豫防吏員 神部 米藏

事務ノ都合ニ依リ三重縣蠶病豫防吏員ヲ免ス
十一月十九日

三重縣蠶病豫防吏員 橋爪幸之助

事務ノ都合ニ依リ三重縣蠶病豫防吏員ヲ免ス
十一月十九日

三重縣南牟婁郡書記、長谷川 平次郎

給九級俸、三重縣南牟婁郡書記、長谷川 平次郎
依願免本官
十一月二十日

三重縣事務官 鶴見左吉雄
三重縣事務官 今野東吾
三重縣事務官 田中次郎
三重縣技師 原靜雄
三重縣林業技師 藤枝俊信

(各通)

三重縣屬 栗山武尾
三重縣屬 平山羽彦
三重縣屬 林田茂七郎
三重縣屬 高輪豐次郎
三重縣屬 長尾真次郎
三重縣屬 片岡宇太郎
三重縣警部 武川直三郎
三重縣書記 池永駒太郎
明治三十九年通常縣會議事參與ヲ命ス

事務ノ都合ニ依リ三重縣書記ヲ免ス
十一月二十二日
三重縣書記 石垣重彦

(各通)

三重縣蠶病 丸山芳助
豫防吏員 後藤信一郎
三重縣蠶病 後藤信一郎

三重縣蠶病 久保寅太郎
豫防吏員 久保寅太郎
事務ノ都合ニ依リ三重縣蠶病豫防吏員ヲ免ス
三重縣書記 前田田敬
十一月二十四日
三重縣三重郡書記、吉田覺太郎
給九級俸

三重縣三重郡書記、吉田覺太郎
依願免本官
十一月二十六日

任三重縣北牟婁郡農業技師 山口源右衛門
三重縣技師 佐藤功一

明治三十九年通常縣會議事參與ヲ命ス
三重縣蠶病 山口源右衛門
豫防吏員 平岡政三

三重縣蠶病 平岡政三
豫防吏員 若林岩太郎
三重縣蠶病 若林岩太郎
豫防吏員

(各通)

三重縣蠶病 田中才之助
豫防吏員 木田茂生
三重縣蠶病 間柄孝太郎
豫防吏員 二之部梅次郎
三重縣蠶病 奥田延之助
豫防吏員

事務ノ都合ニ依リ三重縣蠶病豫防吏員ヲ免ス
十一月二十八日

三重縣南牟婁郡書記、山門光次郎
陸軍召集旅費分任出納官吏ヲ命ス
但南牟婁郡飛鳥村支給所擔當

十一月二十九日
三重縣書記 廣岡兼次郎
事務ノ都合ニ依リ三重縣書記ヲ免ス
十二月一日

三重縣三重郡書記、小林喜三郎
陸軍召集旅費分任出納官吏ヲ命ス
但三重郡富田村支給所擔當

十二月三日

五級俸給與 三重縣書記、阿比子酉次郎
三重縣書記、阿比子酉次郎

願ニ依リ三重縣書記ヲ免ス
十二月十日
三重縣農事試驗場技師、鈴木信太郎
手兼三重縣農業技師

月俸四拾圓給與 三重縣農事試驗場技師、鈴木信太郎
手兼三重縣農業技師

事務ノ都合ニ依リ三重縣農事試驗場技師手兼三重縣農業技師ヲ免ス
十二月十一日
三重縣屬、澁谷修

任三重縣屬、澁谷修
月俸拾四圓給與

第二部勤務ヲ命ス 三重縣屬、澁谷修
任三重縣南牟婁郡書記

月俸拾四圓給與 十二月十三日
任三重縣南牟婁郡書記
月俸拾四圓給與

三重縣阿山、城 威太郎
郡林業技手、
願ニ依リ三重縣阿山郡林業技手ヲ免ス
十二月十八日

任三重縣屬
給十級俸
青木辰次郎

第一部第二課勤務ヲ命ス
任三重縣技手
四元

第一部第二課勤務ヲ命ス
第四土木工區駐在ヲ命ス
依願免本官

三重縣屬、伊藤常太郎
三重縣工手、信太悅藏
(各通)
三重縣工手、伊藤常太郎
願ニ依リ三重縣工手ヲ免ス

三重縣工手、青木辰次郎
事務ノ都合ニ依リ三重縣工手ヲ免ス

三重縣蠶病、長沼辨治郎
豫防吏員
願ニ依リ三重縣蠶病豫防吏員ヲ免ス
十二月十九日

三重縣蠶病 館司馬之助
豫防吏員
三重縣蠶病 伊東吉治郎
豫防吏員
三重縣蠶病 中川寅藏
豫防吏員
三重縣蠶病 澤留次郎
豫防吏員
三重縣蠶病 長谷長四郎
豫防吏員

事務ノ都合ニ依リ三重縣蠶病豫防吏員ヲ免ス
十二月二十一日

三重縣蠶病 駒田太市郎
豫防吏員
三重縣蠶病 小野政吉
豫防吏員
三重縣蠶病 加藤準太郎
豫防吏員
三重縣蠶病 矢野龜三郎
豫防吏員
三重縣蠶病 濱林武三
豫防吏員
三重縣蠶病 佐野幹
(各通)

三重縣蠶病 松島良三
豫防吏員

三重縣蠶病 川北助太郎
豫防吏員

三重縣蠶病 潮田龜藏
豫防吏員

三重縣蠶病 山村寅之助
豫防吏員

三重縣蠶病 藤岡徳兵衛
豫防吏員

事務ノ都合ニ依リ三重縣蠶病豫防吏員ヲ免ス
十二月二十二日

三重縣飯南郡書記、近藤萬次郎
依願免本官

三重縣蠶病 山邊豐次郎
豫防吏員

事務ノ都合ニ依リ三重縣蠶病豫防吏員ヲ免ス
三重縣書記 中村文義

事務ノ都合ニ依リ三重縣書記ヲ免ス
十二月二十五日

給四級俸
三重縣屬、葛輪豐次郎
(各通)
三重縣屬、片岡宇太郎

給五級俸
三重縣屬 大井順之介

(各通)
三重縣屬、倉田有吉
三重縣屬、鎌田千代之助
三重縣屬、倉上眞琴

給六級俸
三重縣技手、塩見道太郎

(各通)
三重縣技手、藤野一二生

給七級俸
三重縣屬、上島汎

(各通)
三重縣屬、中村賢
三重縣屬、廣部三四郎

月俸貳拾參圓給與
給九級俸

月俸拾八圓給與
三重縣屬、森川穎一
三重縣屬、山田久米雄
三重縣屬、葛輪豐次郎

第一部第三課長ヲ命ス
三重縣屬 高木善行

第一部第一課兼務ヲ命ス
三重縣警部、渡邊恒三郎

(各通)

給六級俸

三重縣警部、向井英太郎
三重縣警部、武川直三郎
三重縣警部、岩田龜松

(各通)

給七級俸

三重縣警部、和田正道
三重縣警部、清原幾太郎
三重縣警部、關鎭吉

(各通)

給八級俸

三重縣警部、園川龜代太
三重縣警部、井澤重樹
三重縣警部、石井武八
三重縣警部、渡邊新作

給九級俸

十二月二十六日

三重縣警部、矢田良三

三重縣一志郡長 西塚宗吾

三重縣三重郡長 上野録二郎

三重縣安濃郡長 長英生

三重縣警視 村田莊之助

三重縣安濃郡書記 小野鐵男

三重縣警部 渡邊恒三郎
三重縣警部 兒玉利節
三重縣警部 吉田耕
三重縣警部 岩田龜松

(各通)

三重縣一志郡書記 打田辻次郎
三重縣三重郡書記 吉田覺太郎
三重縣度會郡書記 道田常吉
三重縣安濃郡書記 竹尾研三

三重縣巡査 萩原新次郎

三重縣巡査 願興寺 惣太郎

三重縣巡査 後藤留三郎

三重縣巡査 米村耕造

三重縣巡査 西井初吉

三重縣巡査 稻垣新之助

三重縣巡査 飯野熊治

三重縣巡査 八重口豐吉

三重縣巡査 坂本嘉兵衛

三重縣巡査 池上平吉

三重縣巡査 牧野嘉市

三重縣巡査 横岡波五郎

通報

檢疫委員ヲ免ス

●休職滿期 休職三重縣桑名郡書記井上秀一ハ
本月二十日休職滿期トナリタリ

●生徒募集 東京帝國大學農科大學附屬農業教
員養成所ニ於テ明治四十年四月入學セシムヘキ
生徒若干名ヲ募集セラル、ニ就テハ本縣ニ在リ
テモ適當ノ者ヲ薦舉入學セシメントス入學志願
ノ者ハ左記要項ヲ領知シ來ル明治四十年一月二
十日迄ニ入學願書履歷書身體檢查書ヲ當廳ニ差
出スヘシ

一 入學資格 師範學校在學中農業ヲ修メタル
卒業若クハ來ル明治四十年三月師範學校
ヲ卒業スヘシト當該學校長ノ認定シタル者

(但在學中農業ヲ修メタル者)ニシテ身體健
全品行方正在學中家事ノ係累ナク且將來農
業補習學校教員タルノ志望確實ナル者ニ限
ル

一 修業年限及卒業後ノ義務 修業年限ハ一箇
年ニシテ卒業後二箇年間文部大臣ノ指定ニ
依リ農業補習學校ノ教職ニ從事スルノ義務
アルモノトス但修業年限一箇年ハ之ヲ二箇
年ニ改正セラルヤモ計ラレス此ノ場合ニ於
テハ義務年限ハ三箇年ニ延長セラルヘシ
一 學資 在學中學資ノ補助トシテ一箇月凡金
五圓ヲ給セラシ又圖書其他教科用必要ノ物
品ハ自辨タリト雖時宜ニ依リ貸與セラル、
コトアルヘシ但授業料ハ納附スルニ及ハス
徵兵關係 在學中ハ徵兵猶豫許可セラル、
モ卒業ノ後特別ノ事情ニ依リ小學校訓導ニ
任セラシ、者ノ外ハ六週間現役ヲ終リタル
者ト雖農業補習學校又ハ農業學校教員ニシ
テ小學校訓導兼務ハ今後許可セラレサルニ
依リ二十八歳未滿ノ者ハ兵役上ノ關係ヲ有

スルニ依リ應募者ハ右豫メ承知スルヲ要ス
撰拔試験科目
一 農學 一 理化學 一 博物學 一 教育學
願書其他諸書式

入學願書 (用紙美濃紙)
某儀附屬農業教員養成所へ入學志願ニ付御
許可相成度別紙履歷書相添此段恭請候也

宿所
本籍族(戶主ナラサレハ何
某男或ハ弟等)
年月日 何 某印
生年月日

東京帝國大學農科大學長何某殿
履歷書

本籍族(戶主ナラサレハ何
某男或ハ弟等)

生年月日

一 職 務
一 學 業
一 卒業證書寫
一 資 罰

右ノ通相違無之候也

年月日 右

何 某印

(履歷書中ニ師範學校在學中農業ヲ修メ
タル年數ヲ記載スルヲ要ス)

(身體検査書ハ必ス此書式ニ依ル事)
身體検査書 (用紙美濃紙)

族 籍
何 某
生年月日

一 體 格

一 身 長

一 體 重

一 胸 圍

一 中心視力

一 色 盲

一 眼 病

一 聽 力

一 耳 疾

一 呼吸器

六 體格ハ强健、中等、薄弱ノ三等ニ區別スル
事

七 視力ハ中心視力ヲ兩眼ニ就キテ各別ニ檢
査スル事

八 聽力ハ其ノ障害ノ有無ヲ検査スル事
前各號ノ外身體検査上必要ト認メタル事項ハ特
ニ検査ヲ行フヘキ事

○彙報

●地方特殊事業ノ概況報告參考ノ爲メ茲ニ掲載
ス

愛知縣ニ於ケル畜產獎勵ト染織
獎勵

一 產馬事業 同縣三河ノ國ハ一千年ノ昔ニ於
テ牛馬ノ蕃殖盛ナリシコト之ヲ古史ニ徴シ
テ明ナリ、徳川氏此地ニ起リ其兵ヲ交ルヤ
悉ク同國產ノ馬匹ヲ使用セリト以テ當時ノ
狀勢ヲ察スルニ餘アリ、其後人口次第ニ増
殖シテ牧場ハ田市桑園ト變シ從テ牛馬ノ數
漸次減少スルニ至レリ、斯ル衰頹ヲ招キシ

一 神 經 系
一 皮 膚
一 言 語
一 既往現在ノ疾病又ハ畸形
右検査候處相違無之候也

明治 年 月 日 検査

住 所

何學校醫又ハ開業醫
何 某印

備 考

身體検査ハ左ノ各號ニ準據シテ施行スヘキ事

一 検査器械ハ「メートル」式ニ從ヒ衡器ハ水
準器ヲ具ヘタルモノヲ可トスル事

二 検査ノ表記ニハ衡ハ「キログラム」度ハ「
センチメートル」ヲ以テ一位トシ以下四
拾五入法ヲ用ヒテ小數一位ヲ作ル事

三 身長ヲ測定スルニハ靴等ヲ脱セシムル事

四 體重ハ著衣ノ儘測定セサルヲ可トスル事

五 胸圍ハ常時及ヒ充盈、空虚ノ差ヲ測定ス
ル事

所以ノモノ時勢ノ然ラシムルモノアリタリトハ云ヘ主トシテ人民種馬ノ撰擇ヲ誤リ馬匹ノ賣買宜キニ適ハサリシニ依ル、即チ明治以前仔馬ノ賣買ハ生産者ノ家ニ就キ之ヲ行ヒ購買者ハ必ス該村居住同業者ノ手ヲ經ルヲ要セリ而シテ村内居住ノ馬商ハ自ラ仲介者ト稱シテ契約ノ仲間ニ立チ評價ハ全然此者ノ決定ニ依シカハ自然暴利ヲ貪リ專横極マルナク産馬家ヲ苦シムル甚シキニ到リヌ之カタメ明治初年頃ノ仔馬價格ハ最高參圓最低四五拾錢内外ナリキ、縣當局者之ヲ憂ヒ其弊ヲ矯正センカタメ明治十三年一部二三ヶ所ニ毎年九月上旬ヨリ約一ヶ月間市場ヲ開設セシメタリ其結果明治十三年ヨリ二十年ニ至ル間一頭平均五圓乃至拾圓ノモノ三十一一年以後ハ平均貳拾圓ヲ下ルコトナカリキ

明治十年安場町縣々令ハ三河國山間郡ノ産馬ニ適スルヲ見時ノ名古屋鎮臺司令官四條少將ヲ協議ノ上之カ誘導獎勵ヲ志シ縣ノ補

助ヲ以テ十一年縣立産馬學校ヲ設ケ十六年段戸種畜場ト改メ三十三年六月更ニ亦三河産馬組合ト改稱シ年々五千圓ノ補助ヲ給スルコトナレリ

同事業ハ着々効驗ヲ表シ昨年産駒ノ千二百七十頭ニ就テ見ルニ骨格上多少ノ進歩ヲ認ムルニ到レリ近年ノ年生産數ハ二十年前ノ殆ント五倍半ニ達シ漸次近縣ニ其需要ヲ増シ殊ニ淡路地方ニ於テハ最賞賛セラルサレト同國産馬ハ乘馬用ニ偏シ軍馬トシテハ多少ノ批難アリキ依テ其後飼養管理ノ方針ヲ變シ實用ニ適スル馬匹産馬ニ最メ其結果三十七八年ノ戰役中徵發若ハ購買セラレタル馬匹中三河産馬其大部ヲ占メタリ以テ同獎勵事業ノ盡力多大ナル思フ可シ之カ監督ノタメ三十八年ヨリ從來ノ技師一名ニ更ニ技師一名ヲ加ヘリ其將來ノ方針概要左ノ如シ

(一) 骨格ノ改良ヲ主トシ血液ノ改良ヲ從ト

スルコト

(一) 年々幼駒ノ品評會ヲ開催シ其優等牝馬ニ飼育補助費ヲ與ルコト
(一) 當才販市ノ慣習ヲ廢シ二才市ニ更ムルコト

(一) 畜産巡迴講話講習會ヲ開クコト

二 産牛事業 明治三十九年初テ勸業費ヨリ種牝牛三頭ヲ購入シ之ヲ民間ノ團體ニ無償貸與シ目下改良増殖ヲ圖リツ、アリ

三 染織獎勵 織物ハ同縣物産中ノ主位ヲ占メ三十三年ノ如キ頗ル盛況ヲ呈シ之カ年額貳千萬圓ヲ算セリ綿織、絹綿交織、綿毛交織等ハ同縣特色ノ製産物ニシテ其意匠及製織方法ノ優秀ナルハ世人ノ注目ヲ惹キ其價額ノ低廉ナルハ販路ヲ擴張シ頗ル隆盛ヲ極メシカ近來粗製ノ弊ヲ生シ品質漸次粗惡トナリ加ルニ長幅ノ定尺ニ滿サルアリ遂ニ從來ノ信用ヲ失ヒ忽チ販路ヲ狹ムルニ至レリ茲ニ於テカ縣ハ事ノ看過ス可ラサルヲ見三十七年ヨリ斯業專門技師一名ヲ聘シ或ハ當業者

ノ業況ヲ調査セシメ或ハ講話會ヲ開催シテ斯業ニ關スル革新ノ智識ヲ鼓吹シ一面同業組合ヲ督勵シテ製品ノ検査ヲナサシメ共力斯業ノ改善ニ盡シツ、アリ

東京府ニ於ケル商工業獎勵

一 海外視察者并ニ實業有識者ヲ招聘シテ講話會ヲ開催シ以テ現今商業界ノ狀況ヲ知ラシメ或ハ專門技術家ニ依頼シテ講習會ヲ開キ大ニ其獎勵ニ島メシ結果海外輸出ヲ企圖スルモノ漸次其數ヲ増セリ

東京府立職工學校ハ府下ノ工業界ニ善良ナル職工ヲ供給スルノ目的ニテ設立セラレタルモノナリ創立以來日尙淺ク出身者少ナキモ漸次其眞價ヲ認メラレ既ニ卒業後ノ雇傭ヲ約スル會社アリ又明治三十七年ヨリ市内ノ主ナル當業者ノ委託ニ依リ現ニ工場ニ在ル職工中有望ナル者ヲ教育スルノ途ヲ設ケタリ而シテ又附屬工業補習夜學校ハ晝間工場ニ於テ業務ニ従事シツ、アル者ヲ教育スルモノニテ未タ卒業生多數ナラサルモ皆雇

主ノ信用ヲ得品性技術ノ上ニ於テ職工中蔚然頭角ヲ顯ハセリ、タメニ不知不識ノ間他ノ職工ヲ善化シ多大ノ裨益ヲ工業界ニ及ホセリ從テ雇傭需要頗ル増加シ之カ供給不足ノ觀アリ

大阪府ニ於ケル工業試驗場

一 同試驗場ハ各種工業ヲ發達セシムルノ目的ヲ以テ三十六年十月ヨリ事務ヲ開始シ原料及製作品ノ鑑定檢定試驗及分拆ヲ行ヒ或ハ工業上ノ諮問應答ニ勗ノ稍見ルヘキ成績ヲ顯セリサレト外國ニ注文セシ機械ノ延着セシタメ豫期ノ運轉ヲ見ルコト能ハサリシカ後購入機械漸次到着シ大半其設備ヲ終ヘタリ日露戰爭起リテヨリ工業界ハ銷沈ノ狀態ニ陥リシモ本場ハ專ラ學術的試驗ヲ行ヒシ結果軍需用品ノ製造ニ關シ研究的試驗及汽罐ノ壓力計並ニ艦用連鎖ノ檢定等多ク從ツテ屢々同場ノ成績ヲ世ニ紹介スル機會ヲ有セリ

平和克復後諸般ノ事業勃興スルト共ニ同場

ノ業務モ頗ル多忙ヲ極ルニ至リ從テ機械増設ノ必要ニ迫リタレハ國庫補助法ニ基キ本年國庫ヨリ千參百圓ノ補助ヲ仰キ且下各種機械ノ購入中ニ屬ス而シテ此等機械ノ全部据付ヲ了スルニ至ラハ益幾多ノ研究ヲ遂ケ其結果ヲ公表シテ當業者並ニ需要者ノ參考ニ資スル方針ナリ現時ハ各工場ニ職員ヲ派シテ教授指導ノ任ニ當ラシメ熱心工業界ニ盡シツ、アリ

山口縣ニ於ケル茶業傳習所及其他ノ事業

一 茶業傳習所ハ主トシテ海外輸出向綠茶ノ製法ヲ傳習ス其ノ年限ヲ二ケ年トシ一ケ年ノ傳習期ヲ三十日トス之カ傳習生ハ郡市長ノ推薦ニ依リ一定ノ資格ヲ要ス而シテ入學ニ際シテ誓約書ヲ提出シ年限中ハ必ス繼續傳習スル義務アリ

左ノ各號ノ一ニ該當スル者販賣ノ目的モテ海外輸出向綠茶紅茶ヲ製造スルトキハ茶業獎勵費下附規則ニ基キ獎勵費ノ下附ヲ知事

ニ申請スルコトヲ得

一 縣立又ハ郡立茶業傳習所ニ於テ修業シタルモノ

二 縣立又ハ郡立茶業傳習所ニ於テ教師又ハ助手ノ職ニ在リタルモノ

三 前二號ニ該當スル者ヲ雇聘シ製茶ヲナスモノ

獎勵費ヲ受ケントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ知事ニ出願シテ認可ヲ受クルヲ要ス

一 製茶場ノ位置

二 焙爐ノ箇數

三 操業ノ期間

四 製茶見込數

而シテ又認可ヲ受タル者ハ事業終了後十日以內ニ左ノ事ヲ報告ス可キモノトス

一 原料トシテ用ヒシ茶葉ノ數量及其價格

二 製品ノ數量及其見込價格

三 販賣先

一 牝馬改良獎勵

產牛馬組合法ニ基キ產馬組合ヲ組織シタル

地區內ニ於テ同事業ニ從事スル者左ノ各項

ニ該當スル牝馬ヲ購入スルトキハ縣ハ實地檢査ノ上一定ノ獎勵費ヲ下附ス而シテ同獎勵費ヲ受ケントスル者ハ牝馬購入後三十日以內ニ同牝馬ノ產地、種類、年齡體尺購入價格、賣渡者ノ住所氏名及自己ノ產馬組合員タルヲ證スル組合長ノ書面ヲ添ヘ知事ニ申請スルヲ要ス

一 年齡三歲以上五歲以內ノモノ

二 體尺四尺五寸以上ノモノ

三 強壯ニシテ骨格及性質善良ナルモノ

四 惡癖又ハ遺傳病ナキモノ

仔畜保存獎勵費

一 仔畜トナス目的ヲ以テ實地檢査ノ上性質體格共ニ善良ト認ムル仔畜ニ對シ八圓以內ノ獎勵金ヲ給與ス而シテ獎勵費ヲ受ケントスル者ハ種牡牛馬ノ所有者(縣有ノモノニアリテハ其貸與ヲ受ケタル組合)ヨリ領シタル仔畜ノ血統證ヲ添ヘ町村役場郡市役所ヲ經由シテ同縣廳ニ届出ルヲ要ス

千葉縣ニ於ケル韓海漁業獎勵

同縣下ニ於ケル漁村ノ人口増加ハ漁場ノ狹隘ト個人別收益ノ稀薄トヲ招キ殊ニ本邦地曳網漁場トシテ有名ナル九十九里浦沿岸ノ如キ比年不漁ノ打續キタルカ爲メ疲弊困憊ヲ極メ明治三十六年度ノ如キ多少ノ義捐金ト副業ノ獎勵トヲ以テ僅ニ餓饉ヲ免ルヽヲ得タルノ狀況ナリトス玆ニ於テカ同縣ハ漁場ヲ沖合ニ擴張センカ爲メ耐濤性ヲ有スル漁船新造ノ必要ヲ感シ房總遠洋漁業株式會社ヲシテ模範的漁船ヲ新造セシメ在來漁船ノ改良ヲ指導獎勵スルト共ニ當業者ヲ督勵シテ殖民的漁業ヲ企圖セシメント欲シ同三十七年九月韓國沿岸ニ漁業地選定ノ目的ヲ以テ技師ヲ派遣シ踏査セシメタリ

一 韓海漁業根據地ノ選定

前記調査ノ結果選定シタル漁業根據地ハ韓國慶尙道馬山浦日本專管居留地ニ接續セル栗九味ニシテ土地肥沃、新ニ開墾スヘキ地亦尠カラス、魚類饒多ニシテ交通亦不便ナラサルヲ見ル

一 漁業計畫

以上ノ如ク漁業根據地トシテ適當ノ地ヲ選定スルヲ得タルヲ以テ同縣水產組合聯合會ニ於テハ三十七年及三十八年ニ涉リテ之カ經營ニ副メタリト雖トモ事業ノ性質上寧ロ縣下水產業者ノ團結ニ依テ經營スル方將來ノ發展上得策ト認メ管内水產業者ノ重立タル者熟議ノ上資本金壹萬圓ヲ以テ千葉縣韓海漁業團ナルモノヲ組織シ水產組合聯合會ノ經營セル事業ヲ繼承シ三十九年五月十五日先發員ヲ渡韓セシメテ諸般ノ準備ヲ爲サシメ同六月十四日ヲ以テ移住者七十一名(婦女及小兒ヲ含ム)ヲ渡航セシメタリ嚮キニ水產組合聯合會經營ノ際ニ於ケル渡韓者ヲ合セテ九十三人ヲ算ス依テ同七月ニ至リ根據地監督者ヲ派遣シテ漁業經營ヲナサシメ主トシテ鎮海灣内ニ於ケル鰻ヲ捕獲スル目的ヲ以テ廣島式「ゴンゲン」網ヲ使用シ尙巾着網揚繰網地曳網鮭流網雜漁具繩類等ヲ準備シ時期ニ依リ之ヲ使用スルノ計畫ヲ立

テタ

一 漁業ノ狀況

水產組合聯合會ノ經營當初ニ於テハ該漁場ノ實驗ニ乏シク、適當ナル網具ノ未着ナリシ等已ムナク佐野揚繰網釣漁業ニ從事セルヲ以テ隨テ其收入少ナカリシカ夏秋ノ交ニ至リ鰻ノ來游夥多ナリシヲ以テ網地ヲ購入シ廣島式「ゴンゲン」網ヲ編成シ三十八年八月漁業ニ從事セリ十月下旬ニ至ル間ニ於テ製了セシ鰻干鰻賣却金約千六百五拾圓ナリ其使用シタル「ゴンゲン」網ハ渡航者カ數日間ニ編成シタルモノニテ規模小ニ且ツ不完全ナルノミナラス漁況ニ慣レサルニ尙且僅々八十日間ニ於テ右ノ收得アリシハ前途ニ幾多ノ希望ヲ繋キ得ルニ餘アリシ也事業一度韓海漁業團ノ經營ニ移リ益々地歩ノ鞏固ト成巧ノ確的トヲ認メ得ヘカリシニ偶々近年ニ稀ナル三十九年ノ凶漁ニ遇ヒ加フルニ氣候不順ノ爲メ漁夫ノ疾病ニ罹ル者多ク爲

之ニ從來二組ニ分チ漁撈ニ從事セシモノヲ一組ニスルノ已ヲ得サルニ至レリ如斯同年ハ韓海漁業者深痛ナル打撃ヲ蒙リ豫期ノ効果ヲ見ル能ハサリシハ頗ル遺憾トスル所ナリト雖モ由來同方面ニ於ケル魚族ノ豊富ナル不屈不撓一致團結事ニ當ラハ必ラス豫定ノ好果ヲ收ムルヲ得ヘシ

●左ニ記スルハ明治三十九年九月札幌ニ開設セシ移民事務囑託員協議會ニ於テ內務省地方局員ノ爲シタル演說ノ筆記ナリ掲ケテ當局者、有志者ノ參考ニ供ス

北海道ノ拓殖ハ維新以來ノ國是ニシテ官民ノ俱ニ力ムヘキ事業テアルコトハ今更事新シク申ス迄モナイシテ拓殖ニ必要ナノハ人ト金テアルコトモ亦明白テアリマスカ其人ト金ハ如何ナル手段方法ニ依リ誘致セラルヘキカハ開拓使以來最苦心經營致サレタ所テ旅費手當ヲ給シテ移民ヲ招徠シ特別ノ補助金ヲ下付シテ資本家ノ投資ヲ誘

引セシ時代モアリマシタカスル直接保護ノ政策ハ兎角公平ニ行ハレ兼テ情弊ノ伴フモノテアリマス而シテ内外ノ情勢ハ斯ル直接保護ノ必要ヲ認メサルニ至リ漸次廢止セラレ道廳設置以來ハ主トシテ土地ノ生産力ヲ増シ勞力及資本ニ對スル報酬ヲ多カラシムルノ方策ヲ取ルコト、ナリマシタ日清戰役後北海道ハ國防上忽ニスヘカサルヲ論シ拓殖ノ急ヲ説ク人士カ輩出シテ一般ノ氣運漸ク之ニ向フノ時ニ乘シ政府ハ未開地處分法ヲ制定シ漸次鐵道築港道路排水ナトノ工ヲ施シ其他殖産上ノ調査試驗等凡ソ勞力及資本ヲ待ツノ設備ハ歲月ニ其歩武ヲ進メ來レルノ際日露戰役ニ會シ一時其事業ノ大半ハ之ヲ中止スルノ已ムヲ得サルノ場合ニ至リマシタ是ヨリ先內務省ニ於テハ移住民ニ對スル汽車賃汽船賃割引券ヲ發行シ普通賃錢ノ半減又ハ無賃トナシ頻ニ移住ヲ獎勵セラレマシタ是迄ハ凶作ノ翌年ハ移住者多ク豐作ノ翌年ハ少ナキ例ニシテ戰時中豐作ナリシニ移民ハ平年ヨリモ多ク戰後一層増加ノ傾向ヲ顯ハシテ居リマス是レ必竟上述ノ設備

カ移民ニ重大ノ利益ヲ與ヘテ其利益アルコトカ漸ク府縣下ニ知ラレテ來タ所ノ結果ニ外ナラスト信シマス彼ノ戰時中止セラレタ事業ハ今業ニ復行シタルノミナラス來年度以降益々擴張進行セラル、カト思ハレマス而シテ一方資金ノ移入如何ト問ヘハ渡島水力電氣會社石狩炭礦會社ノ創立王子、富士南製紙會社ノ増資計畫アルニ加ヘテ本道内既設諸會社ノ事業ハ頗ル發展ノ傾向テアツテ鉅萬ノ資金ハ混々トシテ將ニ北海道ニ流入セントスルノ福音ヲ傳ヘ國費事業ノ支出額ト併セテ之ヲ對照スレハ移住者ノ數ハ未タ甚タ少ナキカト思ハレマス諸君ハ青森ヨリ一輩帶水ヲ渡リテ函館ニ上陸其繁昌ヲ觀夫ヨリ汽車札幌ニ到ルノ間ニ於テ既ニ開墾初期ノ狀態ヨリ村市ヲ形成セル一班ノ光景ヲ目撃セラレ是ヨリ北海道廳殖民課長ノ案内ニヨリ石狩上川原野ニ巡遊セラル、趣ナレハ新在移民開墾ノ盛、穀菽登熟ノ狀ヲ觀農場農村ノ實況ヲ詳ニシ猶茫々タル沃野ハ移民ノ健腕ヲ待チ山ニ礦物森林ノ饒多ナル狀ヲ察シ拓殖ノ有利有望ナル次第ヲ了解セラル、コ

ト、信シマスカラ是等ノコトハ先ツ一段落ヲ付ケ進ンテ講究問題ニ移リマシヤウ

北海道移住獎勵ノ必要ナル次第ハ既ニ其一端ヲ述ヘマシタカ獎勵上最有効ナルハ北海道ノ真相ヲ周知セシムルコトテアツテ內務省及北海道廳ハ時々必要ノ報導ヲ爲シ或ハ種々ノ印刷物ヲ配付セラレテ遂々ト其真相力知レテ參リ移住者ハ實際ニ自身カ移住ノ利益ヲ獲テ之ヲ故郷ニ通報スル通報ヲ得タ者カ移住スル是カ比年移住者増加ノ主因テアリマス移住ノ利ニ於テ無資無産ノ人ヲモ北海道ニ這入テ勤勉ト共ニ其成功カ顯ハレテ勞働スレハスル程其結果ヲ生スルコトユヘ益勇氣ヲ出シテ勉メテ參ル父母ノ國ヲ去リ遠ク移住スル者ノ情トシテ斯ル勇氣ノ出ツルハ當然テアリマス怠惰者テモ斯ル周圍ノ事情ノ爲ニ鼓舞セラレテ自ラ勤勉者ノ上ニ立タントスル勇氣ヲ發揮スルカラ成効致シマス外國ノ殖民ヲ見テモ印度ニ於ケル英國殖民ハ成効シ葡萄牙人ハ失敗シ英領亞米利加ノ殖民ハ繁榮シ西班牙ノ殖民ハ失敗セシコトハ歴史ノ證スル所テ英人ルカ

ス氏ハ著英領殖民志ニ英國民ノ成効ハ個人の勇氣ノ活動テアルト明記セラレテアリマス個々の勇氣ハ北海道移民ニ於テモ成効ノ種子テアルト信シマス然シ北海道多數ノ移民中ニハ成効スルモノ許リテナイ失敗者モアリマス失敗者ノ常トシテ其土地ノコトヲ良クハ申サズ難辭ヲ付ケテ報導致シマス而シテ一般移民ノ見ル所トモ或ハ一地方小部分ノ狀況若ハ自己ノ偏見モアリマシヤウカラ悉ク信シラレマセヌ北海道ハ西國九州臺灣ヲ合セタルモノヨリモ尙ホ大ナル面積ヲ有チ石狩ト北見ト情況ノ殊ナルハ勿論同シ北見ノ中テモ東部ト西部トハ氣候風土交通關係マテ餘程相違シテ居リマス未開地ニ付テモ空知上川兩支廳管内ノ如キハ大改良ヲ要スルモノ、外既ニ墾闢セラレテ貸付セラルヘキ土地ハ拂底トナリマシタカ十勝ノ内部又ハ北見ニ於テハ甚タ潤澤ナル等所在狀況ヲ殊ニシテ居ル是カ個人報導ノ盡ク信憑スヘカラサル事由テアリマス諸君ハ府縣ニ在リテハ實際ニ移住民ニ關スル事務ヲ取扱ハレ居リ今ヤ幸ニ本道ニ出張シ本道ノ實

況ヲ查察セラル、コトユヘ冷靜ニ本道ノ真相ヲ看破シ公平ニ判斷シテ歸縣後移住者ニ紹介セラレタイト思ヒマス申ス迄モナク北海道ハ歲月ニ進歩スルコトトテ之ニ伴ヒ其情況モ變遷シマスカラ諸君ハ將來發行セラル、殖民公報其他印刷物ヲ閱覽セラレ又必要ノ事項ハ其向ニ問合ニナレハ喜ンテ答ヘラル、コトヲアリマシヤウ真相カ判ラナケレハ獎勵ハ出來マセヌ

移住者ニ下付スル汽車賃汽船賃割引券是亦移住獎勵ニ必要テアリマス其下付方ニ付テハ內務省ヨリ屢々訓令通牒カアリマシテ近頃ノ移住者ハ大概携帶致ス様ニナリマシタソコテ其渡方ハ帳簿ヲ設ケ之ニ記載シ願書ヲ取ルテトノ煩ヲ須キス簡便迅速ニ渡スコトカ肝要テアル今般割引券ノ様式カ改マリ渡方ニ手數カ減シマシタカ券面ノ記載方カ惡イト通用致サヌ又府縣知事ノ指定セラレタ町村役場テモ下付スルコトヲ得ルコトニナリマシタ是ハ移住者ニ便利ヲ與フルカ目的テアリマスカ便利ニ伴フ弊害ハ之ヲ豫防シナケ

レハナラヌ其一ハ移住ト出稼トヲ混シ移住者ニアラサルモノニ交付スルコト其二ハ移住民カ或ル事情ノ下ニ餘義ナク交付ヲ受ケサルコト等テアリマス此第二ハ稀有ノコトテ或ハ所ニヨリ移住者ヲ出ストキハ勞力カ減ル小作料カ下ルトテ之ヲ厭ヒ巧ニ抑止セラレテ割引券ヲ受ケス餘義ナク移住スルモノナシトモ限ラス注意セラレタイト思ヒマス府縣ノ或ル村テハ其村ノ經濟上移住獎勵ヲ喜ハヌ咄ヲ聞クコトカ儘アリマスカ僻見モアルヤウニ思ヒマス露國ニ於テハ今ヲ距ル十五年前迄ハ西比利亞移住ヲ見ルコト甚タ冷淡テアリマシタカ滔々トシテ移住スル者アルニ至リ本國ニ於ケル勞働者カ減少シテ地主ニ其缺乏ヲ感セシムルコトノ多大ナルヘキヲ豫想シ移住ノ公許ヲ停止シマシタカ西比利亞鐵道敷設ノ議カ決シテ復移民論興リ政府ハ特別委員會ヲ組織シ西比利亞移民ニ關スル意見ヲ討究セシメマシタ其委員會テハ歐露ニ於ケル耕地狹小ナル農業地方ヨリ移住セシムルハ決シテ本國經濟上ノ發達ニ何事ノ妨碍ヲ與ヘサルモノテアル況シヤ人

口ノ増殖 一ケ年百五十万内外テアルカラ其不足ヲ告クルコトナシトノ意見ヲ答申シマシタソコテ政府ノ意嚮ハ全然一變シテ內務省ニ移民局ヲ置キ極力移住獎勵ニカマルコト、ナリマシタ帝國ノ人口ハ比年コトニ五十万ヲ増殖シ生存上ノ競争歲々ニ增長シテ細民ノ生計日ニ難境ニ向フノ狀アルハ掩フヘカラサルノ事實ニシテ識者ノ夙ニ憂慮スル處テアリマセンカ統計ノ示ス處ニ據レハ本州中區ニ於ケル一方里平均ノ人口二千九百六十六富山縣同上ノ人口二千八百五十九略ホ中區ノ平均ニ近イ私カ昨年其縣ニ出張シタトキ調査シマシタ處テハ農家一戸平均ノ耕地反別カ一町一反弱テ一反歩ノ收穫歩合ハ粳米カ約二石大麥カ一石三四斗小麥カ九斗位テ本州中區ノソレノ平均ト大差カナイ而シテ耕地ノ割合ハ少クナイ方テアリマス私カ通過セシ二三郡役所ノ所説ヲ綜合シ小農及小作人ノ家計ヲ概算シタノニハ反歩ヲ耕スモノト見做シテ其收入ハ米カ十六石此代價百六拾圓畦畔作付收入代參拾圓副業收入四拾圓合計貳百參拾圓其支出ハ地租其

他ノ公課種子肥料代ヲ合セテ六拾圓小作ナレハ地租ヲ納メサルモ小作米八石此代價八拾圓ヲ仕拂フヘキヲ以テ差引純收入自作カ百七拾圓小作カ約百圓トナリ一家五人ト見做セハ一人當自作ナレハ三拾四圓テアルカ小作ハ貳拾圓ニ過キナイ而シテ農村一人平均ノ生活費ヲ聞キシニ縣下ノ最高ハ四拾四圓最低ハ貳拾六圓餘ナリト云ヘハ小作人生計困難ノ狀ヲ推知スルニ足リマス猶二三ノ郡村ニ於テハ逐年家族人員ノ増加ニ伴ヒ耕地ノ狹小ニ苦ミ小作地タリトテモ取擴メント欲スル者多ク一反歩ノ小作地ヲ讓受クルニ拾數圓ヲ投スルカ又ハ毎年米一斗位ヲ渡スノ契約ヲ爲サレハ讓受クルコト能ハストノコトヲ承リマシタ出張當時ハ日露戰役最中在郷軍人應召ノ際テ或ハ勞力ノ減少ヲ氣遣フ咄ヲ耳ニセシコトモアリマシタカ土方人夫賃ノ如キ騰貴ノ實ナク却テ前申シマシタ如ク勞力過剩ノ反應ト認ムヘキ事カ顯ハレテアリマシタ斯ル小農多數ヲ占ムル村邑ニ在リテハ生存競争ノ極細民益々増加シテ產業組織ニ大改善カ行ハレナケレハ農事ノ改

良發達ヲ見ルナトノコトハ甚タ困難ヲアロウト
思ハレマス。翻テ北海道ノ實況ヲ顧レハ無資無產
ノ小農ニ對シテモ未開地五町歩迄ハ無償ノ貸付
シ成効ノ上ハ無償ノ附與シ附與後二十ヶ年ハ免
租テアル而シテ成効後耕作テ一反步六圓ノ收穫
カアル假ニ三町歩ヲ耕スト見テ其收穫代百八拾
圓此内ヨリ公課種子其他雜費貳拾五圓(新開地
ハ無肥料ヲ出來ルカラ肥料代ヲ見積リマセヌカ
若シ肥料ヲ施ストキハ收穫ヲ増シテ其代價モ計
算以上トナリマス)ト見テ差引百五拾五圓ヲ收
入シ一家五人ノ衣食費ハ優ニ之ヲ償ヒ得テ尙ホ
農暇未開地ヲ開拓セハ以テ資產ヲ殖スヘク副業
ヲ營メハ以テ貳參拾圓ヲ獲ルニ難カラス而シテ
若シ右三町歩ヲ田畑等分ニ耕作スルモノトセハ
其純收入ハ副業ノ利ヲ合セテ貳百參四拾圓ニ達
スルモノナレハ衣食費ヲ支辨シ七八拾圓ヲ剩シ
得ルノ計算トナリマス故ニ前段ニ申シマシタ通
忍耐勤勉ノモノハ移住後四五年ヲ經三四町歩ノ
土地ヲ所有シ小作人テモ貳百圓位ノ貯蓄ヲ致シ
テ居ル次第デアリマス之ヲ移住前ニ於ケル郷里

ノ小作人仲間ニ比シ其位置境遇ノ差ハ謂フ迄モ
ナク昇進シテ居リ郷里ニ在リテハ移住者ノ爲ニ
勞力減少シテ生存競争ノ度ヲ緩和シ自ラ生活土
其位置ヲ保持スルニ至リ一方移住者ハ自身實力
ノ進ムニ從ヒ購買力ヲ増シ人情ノ常トシテ母國
ノ產物ヲ需用スルノ結果ハ該地方ト北海道ノ經
濟關係ヲ生シ移住者ヲ益ス愈多キニ從ヒ其關係
益々深厚トナリ自然同地方ヲ利スルニ至リマセ
ウ此ニ關スル調査モ曾テ一二地方ヲ試ミマシタ
カ今ハ之ヲ略シマス
終ニ一言スヘキハ府縣ヲ移住者ニ與ヘラル、證
明ノ件デアリマス此件ニ關シ諸君ヨリ種々高話
モアリマシタカ夫レハ道廳ヲモ勿論注意致サル
ト趣デアリマス。カ府縣廳ニ於ケレマシテモ相
當ノ調査ヲ遂ケラレ確實ノモノニ限リ證明ヲ與
ヘラル、コトニ致シタイト存シマス其他移住民
ニ對スル取扱ハ最公平迅速ニ取捌ヒテヤラナケ
レハ彼等カ迷惑ヲ致スコトカアリマス夫ニ就キ
現行ノ取扱手續中苟モ不便ヲ感セラレ又ハ改良
ノ必要ヲ認メラレタコトハ互ニ腹藏ナク吐露シ

テ諸君ト俱ニ研究致シタイトナシマス

一 横濱ニ於ケル伊勢白米

横濱市ニ於ケル伊勢白米最近一ヶ年ノ實際需要
高ハ約四十五万俵ニシテ其卸賣相場ハ一俵平均
金六圓六拾壹錢五厘ナリトス是カ供給ハ重ニ四
日市港ノ仕出及飯南郡松阪町當業者ノ仕向タル
物ニ係レリ四日市白米ハ明治二十二年頃ヨリ三
十二年頃迄ハ横濱市ニ於テ最モ信用高ク殆ト需
要全部ノ供給ヲ爲シタルノ觀アリシカ其後當業
者ハ徒ニ價格ノ競争ヲ事トシ品質漸次粗惡ニ流
レ純粹ノ伊勢米ニ非サル劣等米ヲ交ヘ甚シキニ
至リテハ外國米ヲ混入シ且精白ニ用キルニ多量
ノ白土砂ヲ以テスルカ故ニ大ニ聲價ヲ失墜シ需
要漸ク減少ノ傾向ヲ來シタルヲ以テ横濱商人ハ
數次是カ改良ヲ促シ終ニ改良青切米ヲ製造シタ
ルモ暫時ニシテ品質粗惡ニ陥リタルヲ以テ又復
改良ヲ促シ更ニ赤切ト稱スル白米ヲ製造シ漸ク
伊勢米ノ名ヲ維持シツ、アルモ逐日粗惡ニ流ル
、ノ傾アリ反之南勢地方ヨリ送致サル、白米ハ

何レモ純粹ノ伊勢米ニシテ如上ノ弊害ナキヲ以
テ從來ノ信用ヲ維持シ價格モ亦遙ニ四日市白米
ノ上位ニ在リ殊ニ松阪精米ノ如キハ一般需要者
ノ信用ヲ博シツ、アリ要之縣下ヨリ輸出スル白
米ハ純粹ノ伊勢米ヲ以テシ假令下等品ト雖モ斷
シテ外國米ヲ混入セス又混砂搗ヲ禁止シ若クハ
混入砂ノ性質ヲ吟味シ白米中ニ小石ヲ殘留セシ
メサルコトヲ要ス元來伊勢米ニハ調製不十分ナ
ル爲メ一種ノ土砂混入シアリ故ニ十分ノ注意ヲ
拂フテ此欠点ヲ除クヘシ容量モ往々一俵ニ付一
二升ノ枳切ヲ生スルノ弊アリ宜シク正確ノ容量
ヲ保チ必ス枳切ナカラシムヘシ

二 伊勢白米ノ競争品

伊勢白米ト競争ノ位置ニ立テル物ハ重ニ東京ニ
シテ玄米產地ハ美濃、尾張、三河、上總、下總等ナ
レトモ此等地方產出米ヲ純粹ノ伊勢米ニ比スレ
ハ其聲價遙ニ下位ニ在リ
要スルニ横濱市民ノ大部分ハ純粹ノ伊勢白米ヲ
以テ常食ト爲スモノナレハ混土砂ナク混入米ナ
キ伊勢白米取引商人カ一致共同シテ精良ナル純

行ハレスシテ稿稈ノ生氣尙ホ餘裕ヲ存シ遂ニ適
當ノ熟期ニ達スルノ見込ナク收穫スルニ至リシ
モノアリ實收ノ成績ハ未タ全部ノ調査ヲ了セサ
ルヲ以テ之ヲ知ルコト能ハスト雖種類試驗各
種ノ平均ハ前年ニ比シ大約壹割ノ減收（中稻ハ
七分四厘減晚稻ハ壹
割貳分貳厘減）ヲ免カレサルモノ、如シ當年施
行シタル收穫豐凶考照試驗ノ成績ニ依レハ其反
當玄米收量ハ早稻三種平均壹石七斗七升三合中
稻三種平均貳石三升八合晚稻四種平均貳石壹斗
五升三合ナリ而シテ當年同試驗ニ供用シタル稻
ノ種類ハ中稻ヲ除クノ外從來ノ同試驗ニ供用シ
タルモノト相異スルモノアルヲ以テ直ニ前年ノ
成績ニ徴シ良否ヲ比較スルコト穩當ナラスト雖
今參考ノ爲メ前年及前八ヶ年平均ノ成績ヲ掲ケ
之ヲ對照スレハ左ノ如シ

中稻平均	二、〇八六	三七六	二、一三〇	三八二	二、〇八八	三八二△	〇、九五△	九△	〇、五〇△
晚稻平均	二、一二五	三六六 (三種平均)	二、四五三	三八〇	二、二三五	三八二△	二、九九△	二△	〇、八二△

[illegible]

[illegible]